

はら だ せい りゅう こ ども だい こ
原田清流子供太鼓



第14回



姫名の里まつり 9月21日(土)

毎週土曜日の午後、原田小学校から太鼓の音が響いてきます。その音は『原田清流子供太鼓保存会』の子どもたちが「打てば響く人になれ！」を目標に太鼓の練習に励んでいるものです。保存会は、青少年の健全育成や住みよい地域づくりを目指し、昭和五十九年に結成されました。この会は町内会など地域の人々や地元企業の支援で運営されています。

現在、保存会員は八十一人。子どもメンバーは三十六人で、原田地区だけでなく須津地区や今泉地区からも参加しています。演目は地域に伝わる民話をもとに篠笛、太鼓、謡、踊りを取り入れた創作太鼓「手児の呼坂」のほか、五曲ほどあります。

保存会は、地元のお祭りはもちろんのこと、ほかの地区のイベントや福祉施設でも太鼓などを披露し、幅広く活動しています。平成十三年度には静岡県文化財団による「地域文化奨励賞」を受賞しました。今月下旬には富士市と姉妹都市提携を結んでいるアメリカ合衆国オーシャンサイド市を訪れ、和太鼓の迫力ある演奏を予定しており、国際的な文化交流にも一役買っています。



原田清流子供太鼓保存会会長
 荻野 義 (原田)

練習は「友だちを大切にし、よい仲間をつくらう」「すばらしいふるさとをつくらう」といった誓いの唱和から始まります。

保存会の活動を通して、子どもたちは太鼓以外にもあいさつなど礼儀作法を学ぶことができます。また、上級生が下級生に太鼓を教える姿が見受けられたり、人前で話す機会があるため恥ずかしがりやの子どもがはきはきと話せるようになったりと、この活動が子どもたちの人間性を豊かにしているように感じます。そのような子どもの成長を感じることが私の喜びでもあります。

私たちは、活動を通じてふるさとづくり、人づくりを目指しています。これからも地域に密着した活動をしていきたいと思っています。ぜひ子どもたちの太鼓の音を聞いてほしいですね。

こちら編集室

毎年7月になると、職員を対象に共済組合(会社でいう健康保険組合)の集団健康診断が実施されます。検査2~3日前から酒も絶って準備万端。しかし、結果が来るまでの間、なんとなく憂うつ。昨年はこの時期いろんなことがあって、くたびれ果てていたのに結

果はすべて「良」でした。ジャージャーン、ことしは? 渡された封筒の中には「要受診」通知。周りを探ると、課内には要受診者が私のほかにも3人。よかった(?) 1人だけじゃない。あさってから酒も控え、適宜な運動を行おうと深く反省するこのごろです。

人口 242,044人 (前月比-16)
 男 120,518人 (-2)
 女 121,526人 (-14)
 世帯 83,606世帯 (+62) 7月1日現在
 編集・発行 富士市総務部広報広聴課
 〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
 ☎51-0123(代) FAX51-1456

